

令和 8 年度胆江地域県立病院運営協議会

開催日時：令和 8 年 7 月 2 7 日（月）

1 4 時 0 0 分～

会 場：岩手県立胆沢病院 ヘリポート会議室

1 開催日時

令和8年7月27日(月) 14時00分から 15時20分まで

2 開催場所

岩手県立胆沢病院 ヘリポート会議室

3 出席者(敬省略)

(1)委員

佐々木 努	郷右近 浩	高橋 文浩	阿部 美登利
森谷 俊樹	安倍 キワ子	菊地 さよ	本田 健一
鈴木 和彦	森 有希子	田面木 茂樹	三田 幸絵
松平 アイ子	小野寺 みち子	鈴木 ルミ子	高橋 詠一

以上16名の委員出席

(2)事務局

医療局	医療局長	吉田 陽悦
	経営管理課総括課長	佐々木 英将
	医師支援推進室医師支援推進監	青木 康繁
	医事企画課総括課長	永山 光政

胆沢病院	院長	鈴木 俊郎	事務局長	及川 光二
	総看護師長	菊池 裕子	統括副院長	下田 次郎
	副院長	八木 卓也	事務局次長	最上美由紀
	医事経営課長	佐藤 健	総務課長	泉山 道吾

江刺病院	院長	鈴木 雄	事務局長	稲田 敦夫
	総看護師長	吉川 真喜		

4 開 会

○最上胆沢病院事務局次長兼地域医療福祉連携室次長 それでは、委員の皆様におかれましては、ご多忙のところご出席いただき、誠にありがとうございます。

それでは、定刻となりましたので、令和8年度胆江地域県立病院運営協議会を開会いたします。

本日の進行役を務めさせていただきます胆沢病院事務局次長の最上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

5 委員及び職員紹介

6 会長及び副会長選出

○最上胆沢病院事務局次長兼地域医療福祉連携室次長 続きまして、次に次第によりまして会長、副会長の選出を行います。

委員の皆様の互選により選出いただくことになっております。どなたかご推薦をお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○最上胆沢病院事務局次長兼地域医療福祉連携室次長 ないようですので、それでは事務局よりご提案申し上げたいと存じますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○最上胆沢病院事務局次長兼地域医療福祉連携室次長 ご異議がないようでございますので、会長には郷右近奥州市長様、副会長には高橋金ヶ崎町長様にお願いしたいと存じます。よろしいでしょうか。

○最上胆沢病院事務局次長兼地域医療福祉連携室次長 それでは、そのように決定させていただきます。ありがとうございました。

7 会長あいさつ

○最上胆沢病院事務局次長兼地域医療福祉連携室次長 続きまして、ただいま選出されました郷右近会長よりご挨拶をお願いいたします。

○郷右近浩会長 ただいま会長に選出されました奥州市長の郷右近でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まさに私にとりましてもこの地域の医療をどのように守っていくかにおいては、やはり胆沢病院、この地域で急性期をしっかりと担っていただいているこの胆沢病院、そしてまたさらには、この広い奥州市の中で江刺病院さんが担っていただいている役割、そうしたものがやはりこの地域のまず中心となってくるものというふうに思っております。

そうした意味におきましても、本協議会につきましては、この地域の医療をしっかりとどのようにしていくかという非常に大きな命題を持っているというふうに思っておりますので、皆様方にご協力をいただきながら、この会を進めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○最上胆沢病院事務局次長兼地域医療福祉連携室次長　ありがとうございました。

8 胆沢病院長あいさつ

○最上胆沢病院事務局次長兼地域医療福祉連携室次長　続きまして、胆沢病院院長、鈴木よりご挨拶を申し上げます。

○鈴木胆沢病院長　昨年度より院長を務めさせていただいております胆沢病院、鈴木俊郎と申します。

本日はご多忙の中、たくさんの皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

皆様からのご要望、ご意見を承りまして、よりよい病院運営に務めたいと思いますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

9 江刺病院長あいさつ

○最上胆沢病院事務局次長兼地域医療福祉連携室次長　続きまして、江刺病院長、鈴木よりご挨拶申し上げます。

○鈴木江刺病院長　江刺病院の鈴木です。

私は、今年度から、4月から江刺病院の院長を拝命しております。私も同様に、皆様のご意見を賜って、よりよい病院へさらにブラッシュアップしていければいいなというふうに思っておりますので、今日はどうぞよろしくお願いいたします。

10 医療局長あいさつ

○最上胆沢病院事務局次長兼地域医療福祉連携室次長　次に、医療局長の吉田よりご挨拶申し上げます。

○吉田医療局長 医療局長の吉田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

運営協議会の委員の皆様方には、日頃から県立病院の運営事業に様々なご支援、ご協力をいただいております、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

県立病院の運営につきましては、昨年度からスタートしている経営計画に基づいて運営しているところでございます。現在生産年齢の人口減少の中、良質な医療を提供していくために効率的な形で医療を提供していくということで、県内で高度な医療と身近な医療をしっかりと提供していくということで、経営計画をつくって運営しているところであります。

胆沢病院においては機能強化型の病院として、高度・専門的な医療を提供していくと、それから江刺病院においては、圏域の地域病院として身近な医療を提供していくというようところで計画を策定し、運営しているところであります。

本日は、委員の皆様方からいろいろな意見を伺いながら、今後の県立病院の運営に生かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたしますと思います。

11 議 事

(1) 県立病院等の現状と課題

(2) 胆江地域県立病院の運営について

ア 胆江地域県立病院の業務状況

イ 胆沢病院の運営等について

ウ 江刺病院の運営等について

エ 質疑応答

(3) その他

○最上胆沢病院事務局次長兼地域医療福祉連携室次長 それでは、議事に入ります。

議事の進行は、県立病院運営協議会等要綱第5条第2項により、会長が議長を務めることとなっております。郷右近会長、議長席にお移りいただき、議事の進行をお願いいたします。

○郷右近浩会長 それでは、暫時議長を務めさせていただきます。

これより次第に沿って進めさせていただきますが、着座にて進めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事の進行をさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ます。

では、早速ではございますが、報告及び協議事項を事務局から説明をお願いいたします。まずは、（１）、県立病院等の現状と課題について、吉田医療局長、よろしくお願いいたします。

○吉田医療局長　それでは、医療局長の吉田でございます。私のほうから、県立病院の現状と課題ということで説明をさせていただきたいと思います。

資料につきましては、紙でもお配りさせていただいております。こちらのスクリーンでも結構でございますが、紙のほうが見やすいかなというところでございます。

まず、今日の話でございますが、県立病院の役割、経営計画、現状、それから胆江圏域の状況ということで、お話をさせていただきたいと思います。

まず、県立病院の全体の話でございます。県立病院の設置状況でございますが、既にご承知の方も多いかと思いますが、現在県立病院については20病院、それから今年度から5地域診療センターで運営しております。紫波につきましては、昨年度末に廃止したということで、今年から5地域診療センターとなっております。二次医療圏ごとに基幹病院を配置するというような計画の中で、県立病院を配置しているというところでございます。

県立病院の役割、規模の話であります。まず20病院という部分については全国で一番多い県立病院の数というところでございます。そうした中で、盛岡市に中央病院を設置し、岩手医大とともに全県のセンター機能を担っていただいているというところでございます。それから、盛岡以外の医療圏にも基幹病院で二次救急、三次救急の役割をしているというところでございます。救急の受入れにつきましては、県立病院が救急車の受入れ、6割から7割受け入れているというような状況でございます。

経営計画でございます。こちら6年の計画になっていまして、3番のところの計画の期間というところで、6年の計画になっておりまして、これは前年度、令和6年度に作成した保健医療計画、それを実際に実行していくという部分で、県立病院の計画として6年計画でつくっているものでございます。現状の県内で高度・専門的な医療、それから身近な医療をしっかり提供していくというために、どうやったら実現できるかということで、経営計画のほうで基本計画を設けて実行しているところでございます。その中で、県内でしっかりと高度・専門的な医療を提供していくこと、それから民間病院が立地しにくい地域では、身近な医療を継続的に提供していくと、この2つを基本方向として定めて運営しているところでございます。

県立病院を取り巻く環境でございますが、医療需要につきましては、まずは県内人口が年々減っていくというところでございまして、2050年のところまで人口推計が出ておりますが、将来的には県内78万人の人口というところが推計されておりますので、こういった外部の環境に応じた形でしっかりと医療が提供できるよう計画を考えているところでございます。どんどん人口が減っていくという中で、医療従事者の確保も厳しくなっていくという中で、どのようにしたら高度な医療と身近な医療を提供できるかというところで考えているのがこの県立病院の機能分化と連携強化の流れであります。まずは、これまで二次医療圏ごとに基幹病院を配置して、同一の医療というようなイメージで基幹病院を設置しておりますが、各圏域の状況等を踏まえまして、これまでの基幹病院においても区分、役割を設けて運営していくというような計画としたところでございます。

まずは、中央病院につきましては、センター機能を担うということで、全県のセンター機能を担っていただくと、それから人口10万人ぐらいの圏域においては、機能集約・強化型ということで、胆江圏域では胆沢病院になりますけれども、医師の体制の強み、特徴を生かし、ハイボリュームセンターとしての機能、役割を果たしていくため、がん医療等における高度・専門的な機能などについて集約・強化していくというようなところに来ていくところでございます。

4枚目から5枚目のところにつきましては、ケアミックスということで、急性期、それから回復期なども幅広くやっていくというところでございます。そのほかに地域病院として、準広域につきましては、基幹病院と地域病院の中間的な病院、それから地域密着型として江刺病院が該当しますが、地域包括ケア病床などの病床により、密着した医療を提供していくというような役割分担をしながら運営していくというところでこの計画を進めているところでございます。

収支につきましても、現在令和6年度に大幅な赤字、70億円というような赤字の中で収支均衡していかなければならない。やはり持続可能な医療を提供していくためには、収支均衡していくということが何よりも重要でございます。そうした中で、現在診療報酬が厳しい状況もあるというところもあって、なかなか厳しい運営状況になっておりますが、この計画、令和12年度までの計画となっておりますが、そこまでに収支はしっかりと均衡させていくというようなことを計画しているところでございます。

現在の経営状況の話をしておきますが、まず基本的なことでございますけれども、県立病院につきましては、地方公営企業法という法律を適用して運営をしているというところ

ろでございます。こちらの地方公営企業法というのは、何が記載されてあるかというところ、赤字で書いてありますけれども、独立採算制であるというところでございます。自らの稼ぎ、収益で費用を賄うということがありまして、基本的に自分たちで収益を稼いで運営していくということになっております。

ただし、どうしても不採算の部分、それから政策医療などの部分につきましては、収入では賄えない部分がありますので、その部分につきましては、一般会計のほうから国の基準に基づいて負担をいただいているというところでございます。ですので、地方公営企業法を適用している県立病院につきましては、赤字であろうが、黒字であろうが、繰出金、繰入金という部分の基準に基づいて病院を運営しているというところでございます。

こちらが過去の損益の状況でございますが、県立病院、この赤線で書いているところが収支の状況でございますが、大体1桁台の黒字、赤字の範囲で経営を回してきたというところでございますが、令和2年コロナの頃には空床補償というようないところもあって、国からの補助金も入って大幅な黒字を出したところでございます。しかし、コロナが明けた令和5年の頃から、空床補償というようない補助金もなくなりますが、そういった頃から患者さんの受療動向、それから人口の減少だとか、そういったことももろもろ重なり、それから診療報酬がそもそも厳しい状況というようないこともあり、2桁台の赤字になっているところでございます。近年、令和5年、令和6年、令和7年と3年連続の赤字になっている状況であるというところでございます。

次のページになりますが、令和7年度入院患者の状況でございます。県立病院、まずは持続可能な経営というところで、収支均衡を目指し頑張るぞというところで経営改善の取組を進めてきたところでございますが、病床の削減等も積極的に進めてきたところでもあります。そうした中、病床利用率につきましては、令和7年度は77.2%と、令和6年度よりも2.5ポイント上回る状況というところまで改善してきております。入院患者数についても、延べ患者数で2万1,000人の増というようない状況になっているというところでございます。

紙のほうのスライドは、ちょっと印刷ができていなかったようですが、令和7年度の収支、決算の状況になります。まずは、令和7年度につきましては、総収益1,207億円に対し、総費用については1,231億円ということで、差引き24億6,000万円の赤字となったというところでございます。

1の表のほう見ていただきたいのですが、入院患者数につきましては、前年度よりも2

万1,000人の増というところでございます。外来患者については、前年度差3万9,000人の減というようなところでございます。

決算のところの数字になりますが、入院収益につきましては、積極的に入院患者の受入れというところを取り組んできたところであります。その結果、令和6年度に比べ、入院収益については26億9,000万円の増収になったというところでございます。また、費用のほうの圧縮にも努めてきたところでございます。

医業費用につきましては、入院収益がまず26億円増という状況の中で、費用につきましては、医業費用のところで11億円の増というところでございます。右側の3の(1)のところに医業費用の内訳を書いてありますが、材料費につきましては、院外処方について積極的に進めるだとか、そういったことも取り組んだことより、材料費につきましては前年度から2.6億円の減になっております。

それから、エネルギーの消費量削減ということで、病院のLED化を積極的に進めてきました。その結果、物価高騰の中ではありますが、経費につきまして前年度より8,600万円ほど、0.9億円それぞれ減少することもできたというところでございます。収入の確保と、あと費用の削減ということを取り組んできたというところでございます。

また、昨年度は国の経済対策ということで、そういったところの支援もありましたというところでございます。そうしたことから前年度の、まず令和6年度が73億円の赤字という状況の中で、48億円ほど改善したというところであります。ただし、まだ24億円の大きな赤字の状況となっているという状況でございます。

過去の決算との比較になります。令和元年度というのが大体病床利用率76%ぐらいで、昨年度の病床利用率と同じぐらいのところだったのですが、令和元年度と現在の収入の状況を比較すると、どうなっているかというところでございます。

医業収益につきましては、令和元年度、コロナ前の状況から比べると58億円ほどの増になっているというところでありますが、一方で医業費用につきましては134億円の増になっているというところでございます。費用の134億円の内訳を見ますと、給与の部分で給与費が79億円の増、材料費が21億円、経費が23億円の増というような状況になっています。ということで、費用が増えている状況の中で診療報酬がなかなか伸びが厳しいというような状況になっているというところでございます。そういった背景が、分析しますとそういう状況であるというところでございます。

その中で今年度の状況はどうかと、今年度の予測の部分になってきますが、これ当初予

算の状況でございます。今年度におきまして、引き続き入院患者の確保に取り組むというところでございます。今年度でも前年度に比べ2万3,000人ほどの入院患者の増を確保できるよう取組を進めるというところでございます。外来につきましては、こちらについては2万5,000人の減というようなところで見込んでいるというところでございます。その結果、今年度の収支の見込みはどうかというところになりますけれども、こちらにつきましては、当初予算段階、当初予算ですので、大体2月ぐらいにつくった数字でありますけれども、その段階で32億円の赤字を見込まざるを得ないというところでございます。今年度は、診療報酬改定が6月から行われたというところでございます。診療報酬改定の状況を踏まえると、実際どうかというところが現在の見込みでございます。診療報酬改定が30年ぶりの3%の改定というようなところもありまして、入院につきましては、3,000円ぐらいの単価が伸びるというところでございます。その結果、入院収益につきましては、前年度に比較し49億円程度の増収が見込まれるというところでございます。

ただし、2番の医業外収益につきましては、昨年度の経済対策が今年度についてあるのかどうかちょっと不明だというところでありますので、その部分を考慮しますと、今年度につきましても、現時点での見込みですと49億円の増収はあるものの、医業外収益、国からの経済対策の部分が不明であるということから、結果的に今年度も24億円程度の赤字を見込まざるを得ないというような状況になっているということで、引き続き厳しい状況であるというところでございます。

こういうことから、医療局としてどう取り組んでいくかというところでございますが、当然ながらしっかりと本業で稼ぐ部分については、しっかりと稼いでいくというところではありますが、引き続き不足する部分について、政策医療だとか、そういったことを取り組んでいるところでありますので、厚生労働省だとか総務省のほうにしっかりと現状について説明をし、国に対しても対策を講じるよう要望していくというところでございます。

胆江圏域の県立病院の方向性でございますが、こちらにつきましては経営計画で定めているものになりますけれども、まず圏域の特徴でございます。受療率が高い65歳人口については、2025年の4万5,000人から2030年の5年経過で4万4,000人ということで、ほぼ変わらないというような見込みを立てております。

こうしたことから、まず方向性で下の胆沢病院、江刺病院を記載しておりますが、胆沢病院については機能集約・強化型の基幹病院として、現在の医療体制の強みや特徴を生か

し、専門人材の高度医療器械を重点的に配置し、症例数や手術数の集積を図り、ハイボリュームセンターとしての機能と役割を果たすというところでございます。それから、江刺病院につきましては、地域密着での医療を提供していくというところでございます。

これを今年度の8年度の重点事項として、特に取り組むこととして記載しておりますが、まずは胆沢病院になりますが、高度治療室、HCUの本格稼働による専門的な医療提供、それから手術支援ロボット等の強みを活用していくと、それから医師の体制を活用した高度・専門的治療の実施、呼吸器外科、血管外科両科を備える県立病院は中央・胆沢病院のみというような強みを生かして運営していくというところでございます。

江刺病院につきましては、地域包括ケア病床を活用した積極的な受入れ、在宅医療の実施等、住み慣れた場所での療養をできるよう支援していくというところで、今年度の重点事項として運営していく予定でございます。

私のほうからは以上になります。

○郷右近浩会長 御説明ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明について、何か質問はございませんでしょうか。皆様のほうから何かございましたら、挙手の上ご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

○郷右近浩会長 それでは、続きまして、(2)、胆江地域県立病院の運営についてであります。胆江地域県立病院の業務状況について、胆沢病院及川事務局長よりお願いいたしますというふうに思います。また、この後にも胆沢病院の運営と、そして江刺病院の運営等についてのご説明もいただいておりますので、質疑は一括して、その後にいただきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいとします。

それでは、及川事務局長、どうぞよろしくお願ひいたします。

○及川胆沢病院事務局長 それでは、私のほうから定例会の資料の概要について御説明申し上げます。着席して説明させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

では、1 ページ目お開き願ひます。胆江地域県立病院の医療資源の状況になります。(1)は、診療科及び常勤医師の状況でございます。令和8年6月1日現在で、胆沢病院には81名ほどの医師が在籍しております。江刺病院には8名ということで、合計の医師数は89人というふうになります。昨年度と比較いたしまして、胆沢病院では呼吸器内科の医師が3名増、麻酔科が1名増、腎臓内科1名増、検査科1名増、臨床研修医も1名増となった一方で、小児科1名減となっております。こちら小児科のほうは、令和8年度より常

勤医師不在というふうな状況になってございます。あとは、消化器内科医師が1名減、総合診療科医師も1名減というところで、差し引きすると医師は4名の増加というふうになってございます。江刺病院のほうでは、外科医師が1名の減というふうになってございます。

(2)でございますが、(2)は各病院の基本的な機能等を記載してございます。病床数や救急医療、特殊診療機能等の状況を記載してございます。病床数につきましては、昨年度と変更はございません。胆沢病院では、一般病床337床のうち6床をハイケアユニット病床、高度治療室としての運用を令和8年2月1日より開始してございまして、重症患者さんをより手厚く効率的に提供することが可能となっております。江刺病院につきましては、令和6年度から1病棟体制での運用を引き続き行っているところです。特殊診療機能・器械等の欄のリニアックにつきましては、放射線を照射してがん細胞を死滅させる器械というふうになってございます。また、ダビンチにつきましては、患者さんのお体の負担が少ないロボット手術器械でございまして、こちらにつきましては県立病院の整備は中央病院、胆沢病院となっております。令和6年度に機器の更新を行っているところでございます。

(3)は、医師部門、薬剤部門等の部門別の職員数を記載してございます。こちらの資料につきましては、1点記載誤りがございましたので、訂正させていただきます。真ん中のリハビリ部門、胆沢病院の合計、小計が22.0人と記載されておりましたが、23.0人の記載誤りでしたので、訂正のほうをお願いいたします。時間制職員につきましては、常勤の時間数に換算して記載してございます。圏域全体での職員数は728.3人というふうになってございます。胆沢病院では、先ほどご説明申し上げました医師4名の増のほかに薬剤、放射線部門、検査等で増加している一方で、看護、リハ、事務、栄養管理の職員などが減少しておりまして、合計では5.7人ほどの減少となっております。江刺病院では、食事提供方式の見直しによりまして、調理師4.3人増、あとは事務1人増等ありますが、一方で薬剤、検査、看護等が減員となっておりまして、差引きで昨年度と比較して0.4人の増というふうになってございます。

次に、2ページの資料をお開き願います。(1)は、診療科別1日平均の患者数の状況でございます。上の表が入院、下の表が外来でございます。入院分の右側には病床利用率を記載してございます。令和7年度実績では、圏域全体の入院の1日平均患者数は324.6人、病床利用率は68.9%でした。外来の1日平均患者数は731.2人となっております。

す。

次に、3ページの資料を御覧ください。右側にグラフもお示ししておりますので、併せて御覧願います。(2)は、1日平均入院患者数の推移でございます。令和3年度からコロナ対応と通常診療の両立を目指しまして、診療を行いまして、令和3年度から令和4年度にかけては、入院患者数も増加しつつあったところです。その後令和5年度におきましては、入院患者数の伸びも落ち着きまして、さらに令和6年度は入院患者数、低迷していたところですが、令和7年度に入ってから胆沢病院では循環器内科、外科、泌尿器などの患者数が増加しておりまして、1日平均では10名ほど入院患者さんが増加している、伸びているといったところです。江刺病院のほうでは令和7年度、前年度と比較して1名ほど増加しているといったところでございます。

(3)は、一般病棟の病床利用率の推移でございます。こちら先ほど2ページでご説明した病床利用率は、結核病床を含めた数字ですので、こちらの数字とは若干異なるということになってございます。胆沢病院のほうではほぼ横ばい、80%前後で推移してございましたが、令和7年度は入院患者数が増加したことから、3.2ポイントほど増加しているといったところです。江刺病院は、令和6年度から1病棟運用に変更になっておりますので、60床に対する利用率に変更しましたので、前年度より高く表示になっておりますが、令和7年度については前年度とほぼ横ばいで推移しているといったところです。

(4)は、一般病棟の平均在院日数の推移でございます。平均在院日数は、患者さんが入院してから退院するまでの日数の平均となっております。胆沢病院は毎年度少しずつ短縮傾向にございましたが、令和7年度は0.2日ほど長期化しております。江刺病院はほぼ横ばいで推移しておりましたが、令和7年度は3.3日ほど平均在院日数が伸びているといったところです。

次に、4ページ目をお開き願います。(5)は、1日平均外来患者数の推移でございます。圏域全体の外来患者数は減少傾向となっております。外来患者数と、あとは一番下の救急患者数ともに、令和3年度から5年度にかけては増加傾向にございましたが、令和6年度以降は減少に転じているといったところです。

次に、5ページ目の資料をお開き願います。経営収支の状況でございます。表の一番上が令和7年度の収支の状況でございます。胆沢病院の収益、計(A)の欄でございますが、122億200万円余、費用合計は120億1,800万円余となりまして、差引き損益では1億8,400万円ほどの黒字となっております。前年度比で費用が1億2,700万円ほど増加し

ておりましたが、収益が前年度と比較して 5 億 5,100 万円増と大きく増加しております。令和 6 年度の赤字額 2 億 3,900 万円から、プラスで 1 億 8,400 万円の黒字に転換したといったところでございます。前年度と比較しまして 4 億 2,300 万円ほど収支が改善したといったところです。江刺病院につきましては、収益、計（A）の欄ですが、収益 16 億 4,200 万円余り、費用合計は 17 億 6,500 万円余となりまして、差引き損益では 1 億 2,200 万円余の赤字というふうになってございました。前年度比で 9,400 万円ほど赤字額が圧縮されておりました、収支が改善しているといったところでございます。胆沢病院では、入院患者数の持ち直しによる患者増、循環器内科、外科、泌尿器科等で入院患者数伸びておりました、あとは診療単価が前年度と比較しまして 120 円ほど増加しております。このことによりまして、入院収益が 2 億 6,600 万円ほど増加しているといったところが収支改善の要因となったところです。江刺病院のほうでも 1 病棟削減に伴う職員数の見直し等による給与費、あとは各費用が減少して収支が改善したといったところです。両病院ともに賃上げ、物価上昇支援補助金の増も交付金がありまして、こちらと併せて収支の改善につながったというところでございます。

次に、6 ページ目の資料をお開き願います。（1）は、救急患者数の状況です。一番上の表が胆沢病院というふうになっておりました、一番左側の欄が救急車による来院数の合計、次がドクターヘリ、そしてその他が、ここは救急車以外の方法で、例えば歩いてきたりとか、あとは自家用車を利用して来院した、いわゆるウォークインと呼ばれる救急患者さんの人数になります。胆沢病院では、令和 3 年度から令和 5 年度にかけて救急患者さんは増加傾向にございましたが、令和 6 年度以降は減少に転じています。江刺病院では、令和 3 年度から 4 年度にかけてが増加傾向、令和 5 年度からは減少傾向というふうになってございます。

続きまして、（2）の管内救急隊による搬送状況でございます。胆沢、江刺、水沢の各病院は、令和 7 年度患者数受入れ減少しておりますが、胆江医療圏の 3 病院以外での受入れ、あとは胆江医療圏域外の救急告示病院への搬送はやや増加というふうになっているところでございます。

次に、7 ページ目をお開き願います。医師の診療応援の状況でございます。圏域内で相互に応援しているほか、圏域外の中央病院などからも応援を受けたり、胆沢病院のほうから応援したりしています。胆沢病院は医師数が増えておりますが、眼科、病理科等、常勤医師がいない特殊診療科はもちろんですが、常勤医師がいる診療科でも他病院から応援

を受けないと厳しい状況にあります。

次に、9ページ目の資料をお開き願います。医師以外の業務応援の状況でございます。医師の診療応援と同様に、圏域内で相互に応援しているほか、圏域外の中央病院あるいは中部病院等から応援をいただいて診療を行っているところです。

最後に、10ページ目をお開き願います。(3)、入院患者さんの転院先の状況です。転院先は圏域内が多いのですが、病状等によっては岩手医大あるいは中央病院などの圏域外の病院にも転院しているところでございます。

以上を説明とさせていただきます。

○郷右近浩会長 ご説明ありがとうございました。

それでは、続きまして、胆沢病院の運営等について、胆沢病院、鈴木院長よりご説明をお願いいたします。

○鈴木胆沢病院長 鈴木です。よろしくお願いいたします。

まず初めに、こちらは当院のホームページのトップページとなります。「地域を支える 生命を守る 未来を育む医療を目指して」ということがポリシーとなっております。こちらが胆沢病院のシンボルマークとなっております。

病院の運営方針、こちらホームページに記載がございますが、5つ大きなものがあります。1つは救急医療を含む急性期医療、2番目はがん医療、3番目は地域医療支援、4番目、災害医療、5番、臨床研修、スタッフ教育となっております。

上記の5項目の実践・充実のため、誇りを持てる職場づくりと健全な病院経営に努めますということです。

こちらは、胆沢病院の文化・こころということで、こちらはずっと昔から伝え、受け継いでこられたもので、私も昭和63年に胆沢病院で研修を始めたのですが、その時から上の先生から常に言われていたことで、特に明文化しておりませんが、職員の心の中に残っているものです。

1つは、患者さんを選ばない。救急は断らない。困っている人は何とかしてあげる。安心させてあげる。後輩を教える、育てる。挨拶をする。ありがとうを伝える。こちらが文化・こころとなっております。

こちらが胆沢病院の沿革となります。当地に移転新築しましたのは、平成9年の3月ということで、来年の3月に満30年を迎えます。平成15年には臨床研修指定病院に指定されました。平成26年に地域支援病院の承認を受けました。平成27年には手術支援ロボット・

ダビンチが手術開始となりまして、県立病院では初めてのダビンチとなりました。当院は教育に非常に力を入れておりまして、卒後臨床研修評価機構 J S E P という、そちらの認定を平成30年に受けて、その後今年で3回更新をしております。病院機能評価も最新のバージョンでありますものを去年の7月に合格しております。今年の2月からは、ハイケアユニットが順調に稼働しております。

こちらが当院の基幹型研修病院の特徴として、J S E P を認定されております。J S E P というのは、岩手県の基幹型の臨床研修病院が11病院ございますが、そのうち3病院、具体的には当院と中央病院と岩手医大しか認定されておられません。こちらに岩手県のところがありますけれども、11の基幹病院のうち3つしかない、全国でも教育病院が1,038病院あるのですけれども、330病院、約3割くらいの程度の病院しか認定を受けられないという非常に厳しいものを当院ではクリアして、充実した臨床研修を研修医の方たちに過ごせるように認定を取っております。

こちらは、先ほど及川事務局長がお話したので、ちょっとさらっと流しますけれども、医師は今81名、うち臨床研修医が16名となっております。

こちらが将来の医療を担う研修医ということで、1年次8名、2年次8名とすごく若々しいフレッシュで元気で優秀な研修医が当院で研修してくれます。当院の研修医の枠が8名なので、フルマッチを2年間続けております。昨年度は二十数名の応募がありまして、単独で胆沢病院だけを志願する方も何人かいらっしゃったのですけれども、残念ながらその方たちを受け入れることができなかったという非常に悲しいことがありまして、次年度は9名に増やすことにしました。ただ、やはり人数をたくさん受け入れても研修の質が落ちますので、研修の質を落とさないように1名増加するというので、次年度は9名を受け入れたいと思います。フルマッチになることを祈っております。

こちらは患者さんの状況となります。先ほどもちょっとお話がありましたけれども、令和6年度に患者数、平均の入院患者数が年268人と減りまして赤字になりました。私が昨年度院長になって、何とか患者数を増やして確保して黒字化にしたいと皆さんに頑張っていたら、私がハッパをかけるほうで、頑張っていたところ何とかいろんなところで増えていただいて、10人ほど平均で患者数が増えまして、黒字化を達成することができたということになっております。ただし、下にちょっと書いておりますけれども、今年令和8年度ですけれども、やはり小児科が減ったりいろんなことがありまして、6月までの時点では1日平均入院患者数は前年度比較で23人減とかなり大きく減少しております。

す。ただ、最近少しもち直してきておりますので、今後患者さんが増えていただけることを願っております。それに向けて努力いたします。

救急搬送も先ほどお話がありましたので、ちょっと簡単にだけ言います。令和3年度から令和7年度までの救急搬送を示しておりまして、合計を見ると令和5年度の1万694人がピークで、その後は減っております。救急車も減っております。このように当院の救急は、令和5年度をピークに減少しているということが現実となっております。

どこが減ったかということをちょっと見てみると、こちらやはり令和5年度、胆江圏域内の救急告示病院に運ばれた数が、令和5年度がやっぱり5,500件で一番多くて下がってきています。ここが胆江圏域以外の救急告示病院に運ばれた患者数ですけれども、令和5年度が309件から令和6年度が448件、令和7年度が510件と非常に増えてきております。やはりこれは、当院に令和6年度から脳神経外科がなくなり、令和7年度から皮膚科がなくなった、そういうふうなことがありまして、他の圏域に救急の患者さんが搬送されるという事例が増えてきているということを示していると思われます。

ということで、今お話ししたとおり当院の弱点ということで周産期診療の不可、これかなり前からですね。昔私が研修したところは、小児科も産科も婦人科も複数名いた時期もありましたけれども、残念ながらいろんな事情で現在は周産期の診療は不可となっております。脳神経外科も様々な事情で2年前から不在となりました。昨年度は皮膚科が不在となって、今年は小児科の常勤医が不在となりまして、こちらもいろいろ本当に頑張ったのですけれども、残念ながら医師を確保することができなくて、地域の皆様には本当にご迷惑をおかけして申し訳ないと思っております。

また、現在かなり医師の高齢化が進んでおりまして、高齢で定年を迎えたり、診療が継続できないという診療科もございます。ここがかなり心配しております。病理医、病理の常勤医が全国的に非常に不足しておりまして、当院でも不在となって、がん診療連携拠点病院の要件に病理医の常勤の方が必要なのですけれども、その方がいなくなったために、現在はがんの診療連携病院というふうに拠点病院から外れております。

また、先ほど言いましたように、次の3月で30周年を迎えますので、施設全体が老朽化して、空調、暖房とか冷房が効きが悪かったり、換気が不十分となってきております。こちらは現在、今年度で工事を予定しております。

逆に胆沢病院の強みです。これは、先ほどもお話ししましたがけれども、指導医、研修医を指導する体制が充実しております。あとは、大学病院と密接な関係がありますし、充実

した診療科もたくさんございます。あと、今年から腎臓内科が2人体制になりまして、腎移植も当院行っていたのですが、いろんな事情で休止していたのですが、今年度中に腎移植を再開したいと思っております。ロボット支援下手術も更新されましたので、さらに症例数を増やしていきたいと考えております。血管外科もかなり当院強くて、宮城県北から岩手県南の広い地域から患者さんがいらしております。かなり高度な医療を行っておりますので、入院収益、単価が非常に上がってきておりますし、あとはチーム間の協力が非常にいい病院です。また、いろんな病院に診療応援に行っております。

あとは、これは当院に見学に来た研修医の方からよく言われるのですが、非常に雰囲気がいいと言ってくれるのが非常にうれしいです。見学に来た研修医から、「何で胆沢病院を選んだの」と聞くと、「研修に来て非常に雰囲気がよくて働きがいがあるような病院に感じました」と言ってくれて、よかったなと思っております。雰囲気が悪い病院というのは誰も働きたくないで、いい雰囲気をつくりながらみんなで楽しく働けるような病院をつくっていききたいと思っております。

あとは、少数ながら充実した診療体制ということで、こちらが昨年のデータなのですが、大きな病院4つありますけれども、これらの指導医数の数を示しました。胆沢病院は、去年62名だったのですが、そのうち23名が指導医の資格を持っております。一番多いのは中央病院で175名常勤医がいるのですが、175名のうち28名ということで、率としたら中部、胆沢、中央と比べても、しっかりした指導医がいる病院だということが分かっていただけたと思います。研修をするのに施設認定があると、ここで研修すればいろんな専門医の資格を取れますので、こちらも当院はかなり充実しております。

あとは、私も含めてクリニカルパスを非常に重要視しておりまして、クリニカルパスを使って最適なチーム医療、クリニカルパスというのはご存じないかもしれませんが、医療の予定表みたいな感じです。こういうふうなことを行って、こういうふうなことを目標にして、こことここを見て、こういうふうになったら退院できますというふうなチーム医療の要となるもので、当院では入院患者の97%にクリニカルパスを使っております。パスを使うことによって標準医療……標準医療というのは現在考えられる一番いい医療ができますし、チーム医療が推進されますし、患者さんと医療者間もそうですけれども、情報共有ができますし、さらにパスを使って人材育成ができます。ということで、パスは全職員の仲間意識を高め、多職種的能力を生かし、充実した医療チームを提供するための有用なツールですので、また経営改善にも貢献します。パスの一部を改善することに

よって、収益が上がったり、赤字から黒字に転換とかそういうのもできますので、パスを十分活用して今後も診療していきたいと思います。

こちらは奥州医師会医師との症例検討会も行っております。奥州医師会の先生方に来ていただいて、症例検討をしているところです。脳梗塞の連携パスとか、いろいろ地域連携パスが当院ではかなり運用されていまして、こちらにも年に3回勉強会を開催しております。

住民向けの出前講座、当院の職員がいろいろな公民館とか、いろいろなところに出かけて講演をしますので、当院のホームページにも載っておりますので、ぜひお声をかけていただければ喜んで参りますので、よろしくお願いいたします。

院内の健康講演会も行っております。

あとは、奥州市歯科医師会様も今日いらっしゃっていただいているのですけれども、NSTの栄養管理の連携をしておりまして、こちら当院の前院長の郷右近先生ですけれども、歯科の先生とチームでつくって、入院患者さんの口腔内ケアとか、あと栄養状態の改善とか、そういうのを目指して回診をしていただいて、これもかなり当院で先進的に始められたものです。

今後の今年度の重点取組事項としましては6個行いました。1番は病床利用率の向上で、目標として医療局から病床利用率何%を目指してくださいとか言われておりますので、そこを目指して患者さんに利用していただけるような病院づくりにしていきたいと思います。

そのためには、地域医療連携を推進しなければいけませんので、各医療機関の方々のご意見、ご要望を伺いながら、患者さんからも選ばれるようになっていかなければならないと思っております。

あと、医師の働き方改革で、どうしても長時間労働になってしまいますので、そこも改革していかなければいけません。

あと、大事なのはハラスメントです。様々なハラスメントがどうしても起きてしまいます。そこを防止したり、未然に解決する、早めに解決するようなことも努力しております。

医療事故と医療安全、こちらも医療事故を防止して安全な医療を提供するというのは当然のことなのですけれども、難しいことでもありますので、今後さらに強化していきたいと思います。

当院は、残念ながら弱いところがたくさん出てきたのですけれども、弱いところを嘆い

でも仕方ありませんので、各科の強みがありますので、強みをさらに高めていきたいと思っております。

こちらは将来に向けての構想で、こちらも時々数年前から話をしているのですけれども、ちょっと話させてください。少ない医療資源を有効に活用するには、選択と集中が必要ということになっております。人口はどんどん、どんどん減っていきますので、二次医療圏の見直しが今後必要になってくると思います。そうなりますと人口が減ってくるので、当院も患者さんが減りますので、そうすると病院として経営していくのが困難になります。やっぱりそうすると統合をしてハイボリュームセンター、患者さんをたくさんそこで何でも診られるセンターをつくっていくのが理想と思います。そのことによって、症例数が多くなりますので、症例数が多いほど手術等の治療成績がよくなるという報告がございます。また、高額な医療器機を整備しやすいです。小さなところだと高い器械買えませんので、大きくしていい器械を買って、最新の治療を提供したり、外科系だけでなく、がん治療に関わる内科系も同様に、プロフェッショナルがたくさん育つことによって優れた医療ができると考えております。また、若い研修医ですね、研修医の先生もやはりハイボリュームセンターに集まります。また、患者さんも集まります。やはりこちらが今後どうしても避けていけないところだと思っております。

その参考となるデータなのですが、こちらは磐井病院と胆沢病院の常勤の医師を今年の職員録からちょっと調べてみました。縦軸が医師数でゼロから12、横軸が各科になります。青いバーが胆沢で、オレンジのバーが磐井になります。それ順番に見ていきますと、消化器内科とか循環器内科はほぼ同数、呼吸器内科は当院8名現在いますけれども、磐井は1人しかいません。血液内科は当院だけ、神経内科は磐井だけ、腎臓も当院だけ、あと総合診療科、精神科も当院だけということで、精神科は9月で退職されるので、当院はいなくなるので、ここはゼロになります。小児科は磐井だけですね。外科は、磐井も当院もかなり頑張っていますけれども、磐井の常勤医は6名、当院は11名と、当院のほうがかなり多いです。整形がほぼ同数で、脳外は磐井だけ、呼吸器外科は当院だけ、当院4人おります。皮膚科は磐井だけ、泌尿器科は磐井と胆沢ありますが、胆沢のほうが倍以上多い状況です。産婦人科と眼科は磐井だけです。耳鼻科は磐井のほうが充実しております。放射線科も磐井のほうがちょっと多い、麻酔科は当院は充実しておりますけれども、まだまだこれでも足りないです。あとは、形成、緩和、救急、歯科は磐井だけで、当院は臨床検査があります。ここ見て分かりますとおり、この2つが合体したら非常にバランスのいい病院

になるというのは分かりますよね。全ての科を全部カバーできる。磐井と胆沢が合併して一つの病院になれば、この県南地域をカバーして何でも来いの病院になる、研修医もたくさん集まる、非常にいいことが多いと思います。ただし、それにはやっぱり住民の皆様の理解が必要ですし、いきなり建物を建てるのはかなりお金がかかりますので、そこは今後検討していただきたいのですが、少なくとも機能的な統合ですね、建物的な統合は無理としても、機能的に胆沢病院と磐井病院が協力して、お互いの弱点を補っていい面を伸ばしていく、そのような教育環境をつくっていかねばいけないと思ひまして、磐井病院の院長先生とも会うたびにこういうふうなことを話して、こういうふうにやりたいなと思うのですけれども、なかなかお互いの経営にも関わることで、医療局の理解がいただければできないことで、個人的には胆沢と磐井を一つの病院として、胆沢磐井病院みたいな形にして、経営を一緒にしてもらえればお互いに患者さんのやり取りとか、かなり大胆なことができるのではないかなというのが個人的な考えです。今後ちょっとどうなっていくのかは、皆さんとともに考えていきたいと思ひます。

こちらが最後のスライドになります。基本理念は、「愛を持って地域住民の命と健康を守る」となっておりまして、合い言葉は「誇りを持てる職場、人を育てる病院」。私が院長になってから、職員の皆さんに言っているのは、みんなやりがいを持って頑張りましょう、それで成長してみんな幸せになりましょうということを私は職員の皆さんに期待しながら自分も頑張っております。

こちらは本当に最後のスライドで、最後から2枚目かな、人を育てる胆沢病院ということで、こちらがご存じのとおり大原の水かけ祭りで、そのときに当院の医師がみんな、外科の先生が中心に参加して、胆沢病院、胆沢病院のマーク、国家試験全員無事合格祈願というふうに、こういうのをやってきてくれて、本当に人を育てる、みんなチームワークがいい病院だなというのは、これを見て多分感じていただけたと思ひます。

ご清聴ありがとうございました。

○郷右近浩会長　ありがとうございました。

それでは、続きまして、江刺病院の運営等について、江刺病院、鈴木院長よりご説明をいただきたいと思います。では、準備ができ次第、どうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木江刺病院長　皆様、江刺病院の鈴木です。お疲れさまです。最後に、私のほうから江刺病院の現状と課題について、重複する部分もあるかと思ひますので、簡単に説明させていただきます。

基本理念は御覧のとおりです。

基本方針は、ここにあるように5つありますけれども、月1回の幹部職員の会議では、これをひとつ読み上げて、みんな、病院一同、職員一同、基本方針をたたき込むようにしております。

現状ですが、当院は、上のほうに1、回復期、慢性期、終末期機能ということで、こちらは上を大きく、下を小さくしたのは、今この2のほうの二次救急、夜間の内視鏡とか手術とかは当院ではもうできませんので、全て胆沢病院へお願いしているような状況です。胆沢病院のバックアップをできるだけするように役割分担として回復期とか、慢性期とか、先ほど胆沢病院の鈴木院長が言ったように、地域連携パスなどを利用して、胆沢病院で手術した後の患者さんを引き受けて退院まで持っていくとか、施設との連携を進めていくなど、バックアップ機能を充実させて、機能分化をしております。一般病棟は60床になっております。

これは医師数です。令和元年から8年まで今年の状況です。一番上は内科、これ腎臓内科が多いのですけれども、透析を担う医師が1名、令和8年度のところを見ていただくと、循環器が2名、消化器2名、外科は今年度から私1名だけになりましたので、外科医は1人で。手術は、ですから今年度からは全く、眼科の手術、白内障の手術だけで、外科の手術はもうしておりません。整形ありませんので、あと眼科、リハビリテーション科ということで、合計8名の常勤医師、胆沢病院は80名ですので、胆沢病院のイメージ的にはもう10分の1の医師数で運営しております。

一番下のほう、これは平均年齢です。令和5年度が55歳だったのですけれども、6年からかなり若返っておりますので、47歳から48歳ということで、医師が若返るというのは今どき病院では珍しいのですけれども、江刺病院は比較的若い医師が多くいますので、できるだけ患者様を断らないということは徹底するようにしております。日当直の体制です。当直というのは、平日も含めて夜間の対応する医師が常勤なのか、あとほかから応援をもらっているかということです。当直のほう見ていただきたいのですけれども、当直は夜間ですけれども、6割が当院の常勤で賄っていますけれども、10%前後を岩手医大、東北大、北上済生会、それから胆沢病院からも応援いただいて当直を回していると。できるだけ当院の院内の人間で回したいのですけれども、やはり先ほど来申し上げていますように医師数が8名ですので、そのうち当直をしているのは7名ですので、なかなか厳しい状況、私も今日帰った後江刺病院で当直をすることになっております。日直ですけれども、日直

は休祭日の日中の勤務ですけれども、こちらもやっぱり土日はこちらの職員にも休んでほしいので、当院の常勤は3割で、それ以外は医大、東北大と済生会の先生方をお願いして当直をしているという状況です。

外来患者の推移ですけれども、外来患者さんは徐々にこのように減っていると、1日平均昨年度は123人と徐々に下がってきているような状況です。

救急患者さんですけれども、先ほども話ありましたけれども、救急車はこの黄色い線が救急車ですけれども、昨年度は三百五十幾つで、1日1台を切っております。それからこの濃い紫色が救急来院の時間外の患者ですけれども、これも急に、ちょっとこれがずっと1,000台で、大体1,000台前後で推移していたものが昨年600台まで減ったのはちょっとどうしてなのかなというのが今分析中です。それから、救急受診後の帰宅率が右のグラフですけれども、75%ぐらいで推移しております。ということは、4人に3人は軽症で自宅に帰っていただいていると、4分の1が入院、あるいは他院へ紹介というような状況だということなんです。

これは1日の入院患者数です。入院患者数が令和元年は70人近かったものが徐々に下がっておりますけれども、先ほど来お話ししているように令和6年から一般病床60床に減らしましたので、6年、7年と40台後半ぐらいで推移している、今年もそれぐらいで推移するものと思われます。平均在院日数は20日前後で推移しております。

それから、当院は透析も行っております。透析患者が一時期ちょっと減りましたけれども、昨年度年間4,700人ということで、1日12人とか13人ぐらいが平均、毎日行っておりますけれども、この辺を待機患者も多うございますので、もう少し透析は増やして収益確保に結びつくところではないかなと思い、現在力を入れているところです。

75歳以上の患者さんの割合ですけれども、当院平均年齢が非常に高くなっておりまして、上が入院患者さんです。入院患者さんは80歳ぐらいの患者さん、80歳どころか85歳以上の患者さんがほとんどを占めているという状況です。収益は、先ほど吉田医療局長からも話があったように、この入院収益が紫色と、緑が外来収益ですけれども、昨年度は5億5,000万円、ちょっと徐々に7、6、5と少しずつ下がっております。外来収益のほうはほぼ横ばいに推移しています。

収支の状況ですけれども、令和2年から4年ぐらいまではコロナの補助金もあつたりして黒字でしたけれども、令和5年から緑とオレンジが逆転して、ただこの逆転の幅が少し狭まっているということで、少しそれなりに江刺病院も頑張って、収支を改善している

状況にあるということは御理解いただきたいと思います。

ということで、簡単ではありますが、当院の役割としては胆沢病院のバックアップ機能を充実させ、それから地域の訪問看護だとか、あるいは老健とか、施設への橋渡しの役割、それから訪問診療に力を入れて、小さい病院ではありますが、地域に必要な病院だということをアピールして終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

○郷右近浩会長 鈴木先生、どうもありがとうございました。

それでは、この間胆沢病院の及川事務局長から胆江地域県立病院の業務状況、そして胆沢病院の運営等、そして江刺病院の運営等とそれぞれ鈴木院長のほうからのご説明をいただきましたけれども、これまでご説明いただいた部分につきまして、皆様のほうから何かご質問等ございませんでしょうか。

本田先生、どうぞよろしくお願いします。

○本田健一委員 医師会の本田です。胆沢病院、江刺病院の先生方には日常非常にお世話になっておりまして、この場を借りて感謝いたします。

胆沢病院、いろんな科がなくなっているというお話もあるのですが、ダビンチを使った手術とか、私は消化器内科なので、消化器内科では内視鏡治療が割と東北でも有数の件数やっていたりとか、非常にいい病院なのです、実は。その点があまり住民に知れわたっていないとか、知らない方が多いのかなという気がして、何かもうちょっと、例えばダビンチ手術も今後どんどん力が入っていくと思ひまして、腎移植も始まるということで、わざわざ仙台や盛岡に行かなくても、胆沢病院でちゃんとしたこういう高度な医療が受けられるのだよということを住民に周知するような何か機会を設けられないものかなと。そうすると、もっと胆沢病院の患者さんも増えるのではないかなというふうにも思っているのですが、その辺いかがでしょうか。

例えば市立病院だと、市の広報とかに載ったりとか、病院に来た新任の先生を全部報道機関を通じて紹介してくれるけれども、胆沢病院のことは全く書いてくれなかったりする。胆沢病院では、私は医者なので分かっているのですが、非常に高度な医療が実は受けられるということが割と住民に知られていないのではないかなというのが常日頃思ひまして、ぜひそういう何か人の協力でもいいと思うのですが、住民に周知する機会がもっとあればいいのかなと思ひしております。

○郷右近浩会長 どなたからか何かコメントいただければと思いますが、鈴木院長よろし

いですか。

○鈴木胆沢病院長 本田先生どうもありがとうございました。素晴らしいお言葉いただき、またアドバイスもいただきありがとうございます。

先生のおっしゃることを念頭に、何かいい方法はないか考えていきたいと思います。ありがとうございます。

○郷右近浩会長 本田先生よろしいですか。

○本田健一委員 はい、ありがとうございます。

○郷右近浩会長 ほかに皆様のほうから何かございませんでしょうか。よろしいですか。この際ですので、何か経営部分も含めてお聞きになりたいことあればと思いますが、いかがですか。よろしいですか。

それでは、ほかにないようでございますので、先に進めさせていただきたいというふうに思います。

それでは次に、（３）のその他に移らせていただきます。事務局からその他として提出する事項につきましては何かございますでしょうか。

○最上胆沢病院事務局次長兼地域医療福祉連携室次長 ございません。

○郷右近浩会長 ないようでございます。それでは、委員の皆様のほうからその他として何かありますでしょうか。あわせて、病院に対するご意見であったり、ご要望等についても伺いをしていきたいというふうに思いますが、いかがでしょうか、皆様のほうから。

○郷右近浩会長 よろしいですか。

それでは、特にないようでございますので、以上をもちまして本日の全ての議事を終了させていただきます。本日いただきました皆様方のご意見につきましては、今後の両病院の運営に十分に生かしていただきたいというふうに思います。また、先ほど本田委員のほうからも話がありましたとおり、本当にどのような形でやはり県立病院、胆沢病院がやっていること、そうしたものをしっかりと前に見せていくといったようなこともぜひこれから考えていただければというふうに思うところでございます。

では、議事進行にご協力いただきました御礼を申し上げ、これで私の議長を終わらせていただきたいと思います。誠にありがとうございました。

○最上胆沢病院事務局次長兼地域医療福祉連携室次長 郷右近会長には長時間にわたり議事運営をいただき、誠にありがとうございました。

本日委員の皆様より頂戴いたしましたご意見は、今後それぞれの病院の運営に生かし

てまいります。貴重なご意見を賜り、心より御礼申し上げます。

12 閉 会

○最上胆沢病院事務局次長兼地域医療福祉連携室次長 以上をもちまして、令和８年度胆江地域県立病院運営協議会を閉会いたします。皆様、本日は誠にお疲れさまでした。ありがとうございました。